令和 8 年 3 月再刊第 192 号

ＩＳＯ行動指針　“５ＳとＡＢＣの徹底”

オオケン便り

お知らせ

＜ＰＰＰ事業部＞

令和７年度は、当社が管理する６施設の指定管理業務において様々な事案が発生し、その都度、月例の社内運営会議で報告・連絡・相談を行うとともに、発注元の各自治体担当課との指定管理者連絡会議において情報共有を図ってまいりました。**指定管理業務が長くなるほど、「以前からこうしている」といった慣れが生じ、小さな問題の芽を見過ごしてしまう恐れがあります。**

そこで、今後は一層、些細な異変をいち早く察知し、関係者間で共有することで、利用者の安全確保等適切な施設管理・運営に努めてまいります。

＜ＳＰ事業部＞

４月の催事設営（3 件）のうち、総合住宅展の「小林　春　リビングフェア 2026」のご案内です。４月 10 日（金）、11 日（土）の 10 時～16 時、広島市中小企業会館で開催。各メーカーの住宅建材（床材、壁材他）、水回り（風呂、キッチン、トイレ）等、住宅に関する設備機器の最新機器が展示され、実物を触ることができます。新築、リフォームを検討中の方は是非、お越しください。（三澤）

＜クレンリネス事業部

この度、鍵本前部長が、３月 31 日付けで退職されることになりました。これまで長年にわたり、部門の発展に大きく貢献され、頼れる存在でした。これまでのご尽力に心より感謝するとともに、今後の新たなご活躍をお祈りします。今後は新たな体制のもと、これまで築いていただいた基盤を大切にしながら、部内一同力を合わせてさらなる発展を目指してまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

＜ＦＭ事業部＞

今年度も残り僅か、１年間の整理と次年度に向けての計画を立てる時期となりました。業務仕様書に基づき実施した業務履行状況を再確認するとともに、書類（業務仕様書・計画書･報告書等）は、全員が一目で分かるように保管場所を整理し、確認した「気づき」（改善点、変更点、懸案事項等）は、次年度の業務計画に反映いたしましょう。「5S」「ABC」を実践し、「うっかり！ぼんやり！ヒューマンエラーの撲滅」、「報告・連絡・相談で見える化の徹底」により、無事故無災害を達成しましょう。

＜セキュリティ事業部＞

３月中旬にコンプライアンス意識の向上を目的として研修を実施しました。コンプライアンス違反は、特別な人だけが起こすものではなく、「これくらいなら大丈夫だろう」「少しだけなら問題ない」といった小さな気の緩みから生じることがあります。

こうした“リスクの兆し”は、どの部署、どの業務においても起こり得るものであり、日頃から一人ひとり

が意識を持ち続けることが大切です。今回の研修を通じて、改めてコンプライアンスの重要性を共有するとともに、全社で意識を高めていく機会にしたいと考えています。今後随時、研修を実施いたします。

＜東京支店＞

春めいた陽気と冷たい風が行き交う東京では、東京支店近隣の東京ミッドタウンでも桜祭りの設営が完了し、少しずつ季節の変化を感じられるようになりました。年度末であり都内も慌ただしさが増していますが、東京支店の業務も次年度の契約更新等が順調に進んでいます。新年度に向けて体制づくりを加速させつつ、支店一丸となって歩んで参る所存ですので、事業所現場スタッフの皆様もご協力をよろしくお願い致します。

＜安全衛生管理委員会＞

今年度に発生した業務災害は 10 件。前年度比 5 件増加。労災保険料率は 7.62/1000 と高い水準となっています。この高い水準の労災保険料率を改善するには、業務災害を 1 件でも少なくするしかありません。特に休業を伴う業務災害については労災保険料率に大きく影響する可能性があるため、撲滅していかなければなりません。何卒、安全活動にご協力ください。ご安全に！！

＜磨種（とぎぐさ）＞

県立産業会館様とのビル総合管理契約が始まったのは、小職が㈱大中建装に中途入社した昭和 57 年 4 月。既に産業会館は、主要な取引先として存在していたので、今回の競争入札結果で半世紀になります。この間、時代変化に伴う様々な提案は特筆すべきものもあり、向後も新提案が必要とされます。

入社した当時、私は、営業部の一員として日々の業務に追われ右往左往していましたが、昭和 58 年 4 月に営業部長を拝命し、組織の責任を担う立場となりました。

丁度そのころ、前営業部長が課長・係長の２人を伴って会社を去り、産業会館を利用して商売をしていた御得意先が、前営業部長らの手に移る結果となりました。そこで、私は父である社長とともに契約の復帰をお願いすべく誠心誠意、交渉に臨みました。

しかしながら、先方の担当者からは、次のような厳しい言葉をいただきました。

「私どもは、（株）大中建装の前営業部長以下の方々と、命がけで商売をしてきました。現営業部長である貴方には、何の義理もありません。契約を元に戻すことはできません。」

帰り道に同乗した父の社長から、**「前営業部長は部下２人を連れて退社したが、お前が退社したら何人ついてくるかな？」**と静かに告げられ、その一言が、今も胸の底に深く残っています。

この言葉は、私にとって“リーダーとは何か”を問い続ける原点となりました。

㈱大中建装設立の翌年、18 歳で広島を出て国立大学に入学し、（株）日魯漁業に 11 年奉職、縁あって当社に中途入社しトコロテンで営業部長になった身には、その頃は悔しいだけでコンフロントする力は湧いてきませんでした。翌昭和 59 年２月に父の社長が急逝し、前年株主総会で取締役になった５歳下が社長就任したことからコンフロントに火が付き、死後相続で大株主となった機に乗じて臨時総会を開催して新取締役就任、直後の臨時取締役会で代表に就任します。５歳下の前社長は病気療養を理由に８月期末に退社。その後様々な営業上の蹉跌を喰らいますが、幸運にも見舞われ 40 数年を経て現社長に交代出来ましたことは幸運であり感謝報恩の実践を目指します。

これからも様々な修羅場・土壇場・正念場に見舞われ乍ら存続できるよう、関係各位の GNN（義理・人情・浪花節）でのお付き合いと、皆様の５S と ABC の徹底実践をお願い申し上げる次第です。